

# 経済に影響を及ぼすプロテスタンティズムの性質

- フーコーの規律権力論に着目して -

[自発展開型]

森勇貴（経済学部3年）

指導教員：光田達矢

宗教と経済にはどのような関係性があるのだろうか。古くから宗教はそれぞれの原理に従い、信徒に生きる指針を与え、救済に導くことを目的とした、人々を精神的に豊かにするためのいわば非日常的な活動である。一方で、経済活動は人々の暮らしを物質的に豊かにすることを目的として行われる日常的な活動である。非日常的な宗教と日常的な活動の集結である経済の関係性については、19世紀までは議論されることはなかった。しかし、20世紀に入って間もなく、マックス・ヴェーバーが「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を著したことによって、宗教と経済の関連性についての議論の口火が切られ、様々な論争が展開されたのであった。

本稿では、初めに宗教と経済についての議論の源流であるヴェーバーが「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」の中で説いた、プロテスタンティズムが経済活動に影響を及ぼす過程の理論を紹介する。ヴェーバーはプロテスタンティズムの精神と経済発展との間に相互関連が存在すると説き、プロテスタントの宗教改革が、近代資本主義の出現を可能にするような人々の心理的変革をもたらしたと主張したのであった。

そして、現代の行動経済学的な宗教と経済に関する研究を挙げて、経済活動に影響を与えるプロテスタンティズムの性質としてどのような要素が挙げられているかを考察する。そこで強調されていた経済活動に影響を及ぼすプロテスタンティズムの性質の一つで、「同じ共同体の中に属する人間を互いに監視し、規制することを好む」という性質から、プロテスタンティズムの集団にはミシェル・フーコー的な規律権力のシステムが働いているのではないかという問題提起が導き出された。

『監獄の誕生』の中で説かれているフーコーの規律権力とは、禁止したり妨げたりすることで人の行

為を抑圧する権力である君主権力と対比して用いられる語で、監視の下で人に自由を与えることで、より社会から逸脱しないような社会にとって都合の良い個人を生み出す権力である。

プロテスタンティズムに規律的な要素があるとすると、その源流はいつから認められるのであろうか。ヴェーバーの理論を考察していると、ヴェーバーが説いた17世紀のプロテスタントが禁欲的な職業生活に従事するような合理的人間が形成されるのと同時期に、プロテスタンティズムの規律性の萌芽を求められるのではないかと考えた。したがって、本稿の目的はプロテスタントがヴェーバーのいう組織的・合理的な生活態度を身にまとう過程で、規律化のシステムが働いていたことをフーコーの規律権力論と照らし合わせて検証することである。規律権力という視点はヴェーバー自身やその周辺の研究では考慮されていない視点であり、ヴェーバーが人間の内面的要因から説いた経済活動に影響を及ぼす合理的人間像の形成を、権力関係という外的な要因からも説明しうるものである。

その検証方法として、プロテスタンティズムの中でもイギリスのピューリタニズムに絞って、特にリチャード・バクスターの思想と運動に沿って研究を進めていくことにする。バクスターはピューリタン革命期にばらばらであったピューリタン諸派のどれにも傾倒せず、プロテスタンティズムの原理的な視点から、諸派の一致を目指した指導者として知られている。

バクスターの教会の純潔を達成するために教会規律の有効を求めるという一貫した教えは、ピューリタン革命と同時期に、教会規律の変遷を引き起こし、教会の統治システム（権力構造）の変革を引き起こした。具体的には、絶対王政と結合したイギリス国教会の伝統的な官憲主義的権力支配の完全なる破壊を引き起こし、より各個教会の牧師や民衆が権力を持つような権力構造へと変化したのである。バクスターをはじめとするピューリタンたちはイギリス国教会の官憲的な道德管理と戦い、その強制的にして厳しい教会規律のせいで信徒を組織的・合理的な生活態度へ向かわせる誘因を弱めることになったイギリス国教会の道德管理の欠落を矯正したのである。

バクスターらの運動によって、ピューリタニズムの教会規律は変遷し、効力を発揮し始めた。信徒は内面的な信仰心にまでスポットライトを浴びせられ、それを人前で証する必要性に迫られることで「いつも見られているという感覚・自意識」、つまり常に監視される状況に組みこまれる。その監視の範囲内で信徒に自由を与えることで、命令や服従を強いることなく、より社会から逸脱しないような、社会（教区）にとって都合の良い個人を生み出したのであった。このように、個人の行動様式を完全に捕獲し、自らその社会に適合的な主体の形成に向かわせることは、フーコーの説いた規律化の過程にほかならないのである。つまり、ピューリタニズムの教会規律の変遷によって、信徒に監視の下での自由が与えら

れ、信徒をより規律によって縛りつけ組織的・合理的な生活態度へと導いたのであった。